余土地区まちづくり通信Vol123

令和3年5月1日発行

〒790-0044　松山市余戸東4-4-34　☎090-8979-4101
HP:www.yodo-machikyou-net　メール：yodom4010@gmail.com

余土地区まちづくり協議会　令和3年度総会中止～書面承認～

余土地区まちづくり協議会では、5月25日（火）に令和３年度総会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により総会は中止し、書面承認によることとなりました。

つきましては、代議員の皆様には総会資料を郵送のうえ同封のハガキにて回答いただくこととなりますのでよろしくお願いいたします。

４月新刊のお知らせ

余土公民館図書室の「まちづくり文庫」に下記の図書を購入しましたのでご利用ください。

余土公民館図書室は、毎週月曜日と金曜日の１０時から１２時に開館し本の貸出（貸出期間：２週間）を行っています。

図書名（著者名）	図書名（著者名）	図書名（著者名）
推し、燃ゆ　（宇佐美りん）	本を守ろうとする猫の話（夏川草介）	風花帖　（葉室　麟）
みんなふつうでみんなへん　（枡野浩一）	羅城門に啼く　（松下隆一）	お探し物は図書室まで（青山美智子）
逆ソクラテス　（伊坂幸太郎）	泣かない女はいない　（長嶋　有）	心淋し川　（西條奈加）
ダーリンの進化論　（高嶋ちさ子）	蔦重の教え　（車　浮代）	上を向いて生きる　（宮本亜門）
おめでとうかいぎ　（浜田桂子）	ひとりをたのしむ　（伊集院静）	ありがとう！　（草刈正雄）
おにのふろや　（苅田澄子）	矜持　（今野　敏）	エンド・オブ・ライフ（佐々涼子）
在宅ひとり死のススメ（上野千鶴子）	渋沢栄一　（芝田勝茂）	心が挫けそうになった日に　（五木寛之）
私は夕暮れ時に死ぬと決めている　（下重暁子）	ごちそうたべにきてください　（茂市久美子）	
ふしぎ駄菓子屋銭天堂にようこそ　（廣島玲子）	死ぬときに後悔しない生き方　（内藤いづみ）	

4月の新刊から　～書評紹介～

☆**「推し、燃ゆ」**☆　**（宇佐美りん　著）**　～第164回芥川賞受賞作品～

宇佐美りんさんは1999年、静岡県沼津市生まれ、神奈川県在住。2019年、母娘の愛憎を方言に似た言葉遣いで描く「かか」で文芸賞を受賞しデビュー。同作で2020年、三島由紀夫賞を最年少で受賞した。芥川賞の21歳での受賞は、2004年に同時受賞した綿矢りささん（当時19歳）と金原ひとみさん（当時20歳）につぐ、史上3番目の若さとなった。

受賞作は、応援するアイドルがファンを殴って炎上した女子高校生が主人公。自らの「背骨」に例えるほど全身全霊で他者を推す＝応援する生活のゆらぎを、するどい肉体感覚で描く。

☆**「心淋しい川」**☆　**（西條奈加　著）**　～第164回直木賞受賞作品～

西條奈加さんは1964年、北海道池田町生まれ。東京英語専門学校を卒業後、会社員として勤務するかたわら、2005年、「金春屋ゴメス」で日本ファンタジーノベル大賞を受賞し、デビューした。2015年、「まるまる毬」で吉川英治文学新人賞を受賞している。直木賞は初めての候補で栄冠を射止めた。

受賞作は、江戸の片隅で身を寄せ合う長屋の住人たちが主人公の短編集。貧しい家庭からの脱出を夢見る少女、好いた女性が忘れられない板前らに蔭からそっと手をさしのべる差配の老人には、誰にも話せない秘密があった。ささやかな日々の暮らしに起きる変化を丁寧な筆致で描いた。

☆「逆ソクラテス」☆　（伊坂幸太郎　著）

あんな大人になりたくない―小学生のとき確かに思ったことがある。しかし、今になると自分がそうなっていないか心もとない。伊坂幸太郎の「逆ソクラテス」は、決まり切った世間の慣習や先入観に立ち向かっていく。純粋で機知に富んだ小学生たちの活躍を描いた短編集だ。

「考えを覆す」という抽象的なことがテーマだが、軽妙なテンポの個性的な会話と二転三転するストーリー運びとで、胸のすく快作になっている。収められているのは、表題作のほか「スロウではない」「非オプティマス」「アンスポーツマンライク」「逆ワシントン」の5作。

どの作品も読後感がよく、希望を感じるのは、子供たちの結びつきが丁寧に描かれているからだろう。立場や地位に関係なく、気が合うだけでつながれていた貴重な時代を懐かしく思うとともに、その頃、この本に出合いたかったとも感じた。著者の原点にふれた気になる短編集。感性豊かな小中学生たちにも是非読んでほしい。

☆「エンド・オブ・ライフ」☆　（佐々涼子　著）　～本屋大賞2020年ノンフィクション大賞受賞作～

読み始めたら、泣きます。読み終えたら、微笑んでいます。最初から最後まで、心揺さぶられる本です。ベストセラー『エンジェルフライト』『紙つなげ！彼らが本の紙を造っている』の著者、佐々涼子が、こだわり続けてきた「理想の死の迎え方」に真正面から向き合った。京都の診療所を訪れてから７年間、寄り添うように見てきた終末医療の現場を静かな筆致で綴る。私たちに、自身や家族の終末期のあり方を考えさせてくれる感動ノンフィクション。

（あらすじ）

２００名の患者を看取ってきた看護師の友人が病を得た。「看取りのプロフェッショナル」である友人の、自身の最期への向き合い方は意外なものだった。残された日々を共に過ごすことで見えてきた「理想の死の迎え方」とは。在宅医療の取材に取り組むきっかけとなった著者の難病の母と、彼女を自宅で献身的に介護する父の話を交え、７年間にわたって見つめてきた在宅での終末医療の現場を描く。

各地区・団体からの情報コーナー

「第5回森盲天外を偲ぶ会」の延期について

「一粒米の会」（会長：森二朗さん）では、先月号の「余土地区まちづくり通信Vol122」で開催案内していました5月1日の「第5回森盲天外を偲ぶ会」は新型コロナウイルス変異株の感染者増加のため延期し、日を改めて実施することとなりました。なお、5月30日（日）の「第10回ふるさと余土学」は下記の予定とおり開催いたします。

『第10回ふるさと余土学』

日　時　　令和3年5月30日（日）10：00～11：30
会　場　　余土公民館　2Ｆ　「大会議室」
内　容　　演題「明治24年の子規と孤鶴」
　　―天外は子規がつけたのか―
　　講師　松山市立子規記念博物館
　　総館長　竹田　美喜　先生

第5回「Café　de　盲天外」開催案内

「一粒米の会」（会長：森二朗さん）では、「第5回　Café　de　盲天外」を下記のとおり開催しますので皆様のご参加をお待ちしています。会員以外の方の参加もご自由となっていますが、新型コロナウイルス感染防止対策を充分講じて開催しますので、参加される方は「マスク着用」をお願いします。

なお、新型コロナウイルス感染状況により「中止」する場合もありますので予めご承知ください。

日　時　　令和3年6月20日（日）　10：00～11：30
会　場　　余土公民館　2Ｆ　「大会議室」
内　容　　シンポジウム「森盲天外を語る」
　　【登壇者】　森　和弘氏（副会長）・玉井　齋氏（運営委員）・福井壽泰氏（事務局長）
　　【コーディネーター】　武山　泰政氏（運営委員）

一粒米の会　愛媛銀行ふるさと振興基金表彰受賞

「一粒米の会」（会長：森　二朗さん）では、愛媛銀行が行っている地域で頑張る文化団体を応援する「ふるさと振興基金」事業に応募し、この度、めでたく表彰されることとなり、3月23日（火）に愛媛銀行本店にて表彰式がありました。表彰式には森二朗会長が出席し、公益財団法人愛媛銀行ふるさと振興基金の西川義教理事長から表彰状が授与されました。また、森会長は受賞した4団体を代表して謝辞を述べられました。

表彰状

一粒米の会
会長　森　二朗　殿

貴会は歴史資料の保存活動を通じて歴史文化の継承と地域の活性化に大きく貢献されています
ここにその功績を称え助成金を贈り表彰いたします

令和三年三月二十三日
公益財団法人
愛媛銀行ふるさと振興基金
理事長　西川　義教

「保免西町内会」町内会活動貢献者に感謝状授与

保免西町内会（会長：上甲厚志さん）では、愛媛県が4月8日から新型コロナウイルスの感染対策期に感染対策レベルが上がったことから、年度始めの定期総会は書面議決としました。そのような中、4月17日（土）に、保免西分館の屋外敷地において、長年にわたり保免西町内会理事として、「明るく、安全で安心な居心地の良い町内会づくりのため、多大な貢献をされた3名の方々にその功績を称え、感謝状が授与されました。

余土公民館だより

公民館に「こいのぼり」が泳いでいます。

公民館では、昨年、ご家庭で不要となった「こいのぼり」を寄贈していただくよう募集したところ、2名の方より寄贈がありましたが、昨年度は諸般の事情により実施できませんでした。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により数々の事業が中止となっているため、この新型コロナウイルスの退散の意味を込めて、公民館の駐車場に「こいのぼり」を泳がせることにしました。

余土保育園園児が公民館の「おひなさま」を見学に来ました。

公民館では、3月3日（水）から約1か月間、公民館玄関フロアーに「ひな壇飾り」を展示しました。

飾りつけをしたその日に、近くの余土保育園園児のみなさんが「おひなさん」の見学に来てくれました。

公民館庭に「唐錦柿の木」を植樹

この度、余土公民館に「唐錦柿」の苗木が寄贈され、余土公民館体育室南側庭に植樹しました。

この「唐錦柿」は、余戸にとって所縁のある「柿」で、昭和天皇が皇太子時代の大正11年4月に松山に来られた時に、余戸の五十崎さんの庭の「唐錦柿」を献上したという話が残っています。

「唐錦柿」については、インターネットで調べてもヒットしませんでしたが、いしぶみ同好三人会編集発行の「いしぶみ子規以降」という本（昭和62年10月発行）に「唐錦柿」に関する記載記事がありましたのでご紹介いたします。

「唐錦柿」について、まず読みが分からなかった。ある本に「とうきんがき」とルビがあって、分かった。しかし、実体はどんなものか。百科事典、果樹図鑑で調べてもない。県の果樹試験場に尋ねても分からなかった。子規の作品中の植物についての論文もある山本四郎氏（明徳短期大学教授）にお尋ねして判明したのは、「松山市の余戸、土居田など極めて限られた地区に栽培されている甘柿。球形の実で、富有柿よりは小粒である。でも、もう5，60代以上の人でないと知らないだろう」ということであった。その上、実際に今もそれを栽培している何軒かのお宅を教えてもらった。ところが、何と、筆者の一人が、この句碑のある五十崎民弥氏（古卿の親戚）邸を訪ねると、このお宅にあったというのである。「灯台もと暮し」であった。「天皇陛下にも献上したことがあるよ。この家によくやって来ていた波郷も、自身で木にはしごをかけて、もいで食べておりました。」とのこと。「唐錦」とは、中国渡りの錦地で、珍貴な品物であった。舶来物へのあこがれと、柿の美しさとから名付けたのだろう。しかし、だれが名付けたのか、いつごろから栽培されているのか、まだ分からない。山本教授も、この柿のことを園芸的に扱った文献を見たことがないとのことである。　「いしぶみ子規以降」より　（いしぶみ同好三人会編集発行；昭和62年10月発行）

公民館に余土地区街の花「タマスダレ」を植える。

余土公民館の体育室前の花壇に余土地区街の花に選定されている「タマスダレ」の花を植えました。

「タマスダレ」は、純白の花を咲かす多年生の球根植物で、学名は「ゼフィランサス・カンディ」でヒガンバナ科タマスダレ属の花です。原産地は、南米のアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイのラプラタ川流域及びチリ、ペルーです。花は、直径4～５ｃｍほどの純白の花で、花弁は6枚で雄しべは黄色くてよく目立ち、長さ20㎝ほど伸びた花茎の頂点に１つだけ上向きに咲かせます。日が当たる頃に開き始め、夕方になると閉じて、２～3日ほど咲き続けます。花一輪一輪は3日程度しかもちませんが、一つの球根から何回か花茎が上がって咲くので長期間楽しむことができます。花が咲く時期は5月下旬頃から10月頃にかけてですが、主に初夏と初秋によく咲きます。また、乾燥が続いた後に雨が降るとよく花を咲かせる性質があります。

葉は細長く棒状で長さは20～30ｃｍ、幅は4～5㎜ほど、濃緑色で土から直接出ています。葉は寒冷地では枯れますが、温暖地では葉をつけたまま越冬するので一年中常緑です。

日本へは、ヨーロッパからインドを経て明治時代初期の1871年頃に渡来しました。タマスダレの名の由来は、純白の花を「玉」（真珠などの丸い白い宝石）に棒状の葉が集まっている様子を「簾」（すだれ）に見立てて名付けられてと言われています。花言葉は、ゼフィランサス属の総称の花言葉でもあり「汚れなき愛」「純白の愛」「期待」「便りがある」などがあります。「汚れなき愛」「純白の愛」の花言葉はタマスダレの純白の花から言われ、「期待」や「便りがある」の花言葉は、ゼフィランサスの語源である西風を意味する「ゼピュロス」に由来し、「風が便りを運ぶ」という意味で付けられたと言われています。

タマスダレはヒガンバナ科の植物なので植物全体に毒性があります。鱗茎や葉にリコリンというアルカロイド成分が含まれていて、誤食すると嘔吐、痙攣などの症状を起こします。リコリンは全草に含まれていますが、特に鱗茎に多く含まれています。タマスダレの葉はニラなどに、球根はラッキョウやノビルなどの球根植物に似ているので、タマスダレを栽培するときは、誤食を防ぐためにも食用とする外形が似ている植物とは離れた場所で栽培しましょう。